

木に囲まれた空間づくり



坂口ゼミの学生室に教えてもらいながら、木材に紙やすりをかける子どもたち＝半田市新池町で

半田の学童保育所「あさがおクラブ」

半田市新池町の学童保育所「あさがおクラブ」で二十五日、子どもたちが木で本棚やホワイトボードなどを作る木質化ワークショップに挑戦した。日本福祉大福祉工学科(半田キャンパス)で学び、坂口大史助教(三互)の木造木質建築ゼミに所属する三年生六人も参加。子どもたちと一緒に作業に取り組んだ。

(高田みのり)

日福大ゼミ協力 カーテンや本棚で室内快適に

坂口ゼミでは昨年四月から、山林経営などを手がける「西垣林業」(名古屋市中)と連携し、地域の森と町をつなげるプロジェクトに取り組んできた。四月以降、同社から豊田市産のスギやヒノキを購入し、個人宅や施設屋内を木質化できるリフォームキットの販売も予定。今ワークショップは子どもたちへの環境教育と、キットの施工事例と位置付ける。

クラブでは子どもたちが二十人ほど参加し、学生に教わりながら紙やすりをかけた。長さ一辺ほどの短冊状の木材は角を丸くした後、その場で金具を取りつけられて木のカーテンに。横川小四年の

「木がカーテンになるってすごいじゃない? 森や自然、木のおいが大好き」とうれしそうだった。

坂口助教は「夏は暑く冬は寒いプレハブの建物で簡易的な環境改善ができる。子ども自ら作業することにより愛着を持ってもらえるのでは」と話していた。